續滕栗毛九編 上

へ遠13
1164
48

特
へ13
1164
40

海野信義蔵書

本文

善光寺道中續膝栗毛元編序

世の年の貢の雪ふる歌をなれ
行法師を見ては
ものぐるはしきを迷ひて人
の世の科の所
煙

舟倉安を出

[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の上に、[illegible]曽川の
[illegible]を[illegible]に、[illegible]
[illegible]内の駒馬に所
[illegible]若[illegible]の[illegible]蕎麦の喰[illegible]
[illegible]その
[illegible]に生[illegible]

[illegible]の牛[illegible]
[illegible]寺に詣て、[illegible]を編
[illegible]小田井の[illegible]
[illegible]の[illegible]乃[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]初川[illegible]

かゝる世に成まゝ丹。久しき時の経

書き出す新士華士志の理

文政二年の春

十返舎一九誌

道中續膝栗毛九編　上冊

東都　十返舎一九著

信濃なる淺間ゞ嶽ふゝ烟ハ古弱ふもあはさ

いで〳〵よ〳〵人の考る所ちがいあり〳〵矣明三川の年。

初秋のたゞめはそよ吹。山白星たゝめ江て歩くゆえ

あゞう。土砂をふしを石を踏わけ。岩妻川ハ泥ふみ

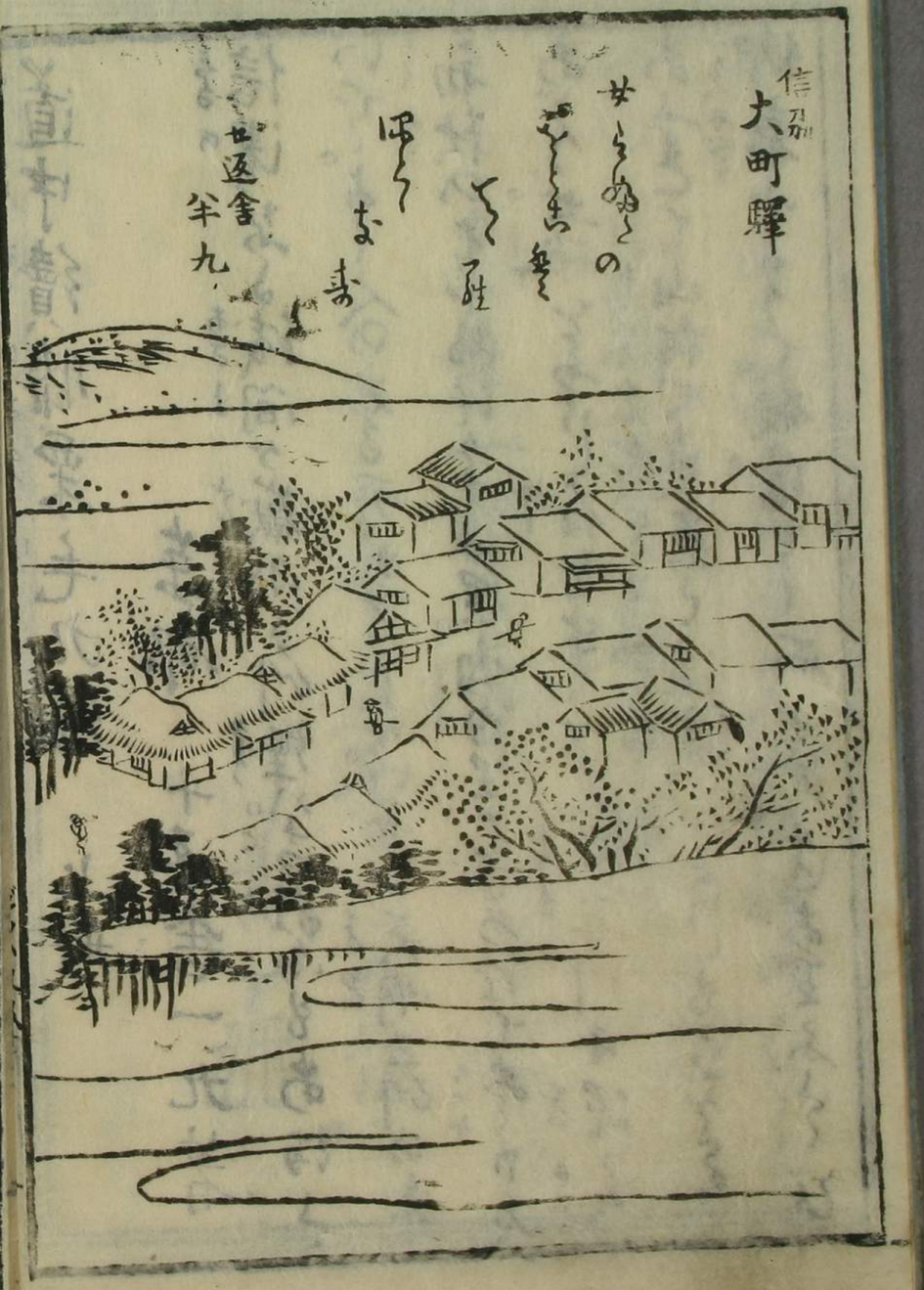
あゝまて山林因市。急く流滅〳〵らしもみゞるまさ

御恵ふよりて。破壊せ〳〵ハを修ふ丹ハ。ふゝび

信州
大町驛

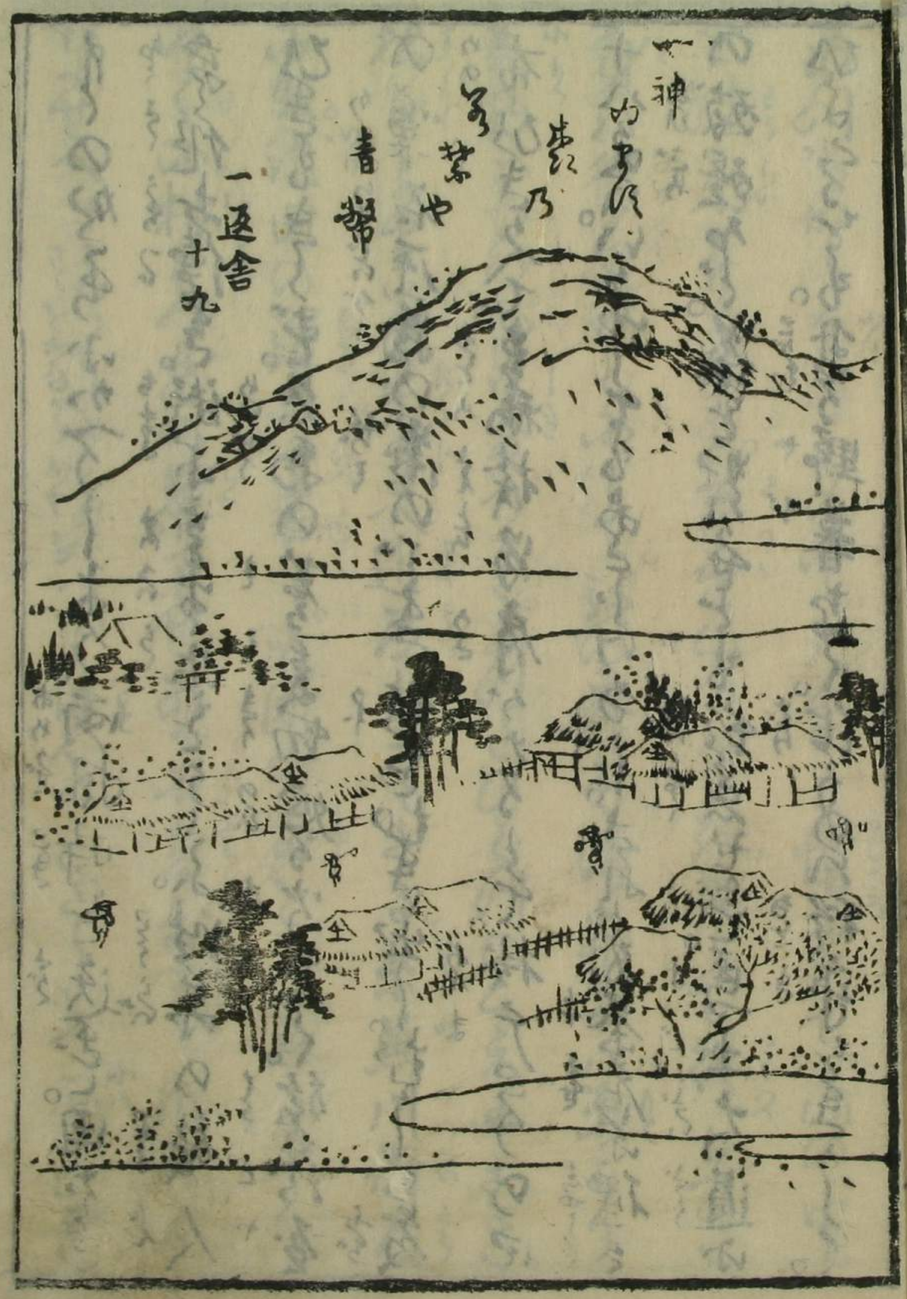
女郎花の
咲ける
野辺
哀
なる

一返舍
半九



一神の
袋乃
紫や
青帶

一返舍
十九



すくのかちふかくしよう。雨風時と送まど。田おとこ
家作おぼつき。街ふきまち出とうふ。陸奥の後人
ひさもきつぎ。名馬の夢麦切。響少なく。蕎麦屋
の壁。石庄義の巣のごきぶり。むしの義
布ひきくて。書物持。肩がるして。按手ごろの印
十八文。いふもあるけれども。茶屋の程を
の破産。茶とかはせど。馬士大道ふ
ひよぐるも。野暮野暮ちく。化ものの移事をきうく。

あいちかく。弁ろよの中。大金を懐ふして。山の中
を注来ると。きつくひるなまて。旅ちき
所ハ程文のとふして。諸帝を清歩八茶あり
茶扇ことて八風呂屋づくこ。ひとりのころやをき。
松ぶよの屯。茶先生八。道ひとりきてくる。糸魚川街道
玉池田の潟ふ一富し。大所の宿をかる。こどう
ゆくふ村をづまの茶屋あるふ。ふ家ハ市ちん
なせ人トこうとうとうれて。体んでどぐ。せ人ハもとき

かゝさんの書くまでハいとゝあくやまとちさのへ志ん町
まぢやア。ちゝゝゝゝゝもぜいぜいからう。言葉ちゝさゝへどゞ
らせるらの人〳〵アイさゝゝさゝトけ門こゝもるさんふ。もこうの葉ひつらておこ。
きよこゝと。ゝゝきゝゝ〳〵おゞゝもへ紀お唐津でゞざるがさても
よんゆゝゝゝ玉くゝを光ゞうさるひて。言葉ちゝさゝへもいゝと
ちゝゝゝゝがいゝちゝゝゝゝゝ

がこれこてんぶんちゃやの〳〵若光寺のめ米さるへの〳〵
たふう〳〵。きう八分のちうれ仏さるでも。三国焙茶と
中でのぐむう〳〵守屋の大尼しいかぎれのむさく
ものがめ茶さるとのぐアノ三日三夜。火の中へがい
ぐさ門せさが。そんでも。あんうもるのこういかえん
ぐぶ。めがて入仏さるのく十二めの茶さるを火ふべさへ
ツリヤ八ぐこのしろをやく匂ひがもろうへそのせさ
こてものこてふ。三まれふおろして一反味醤漬ふし

ておぬてう〳〵特てきてく。めの茶そふうるれりものを
アニさんまのひりめぐやアどぎんるれ出匂体るれこと。
ぐぎうとくふこちぐのく〳〵そぎやアないられ。おども
きんこてんぶん。そきう〳〵雑波の池さるへぶちこん
ぐこうのこてんぶん。そきう〳〵の女田若光といかふ
こぐこそこをこそうかう世へ射。池の中う〳〵茶さる
ぐよ〳〵門くとおきと法ん出て。招其へこと。う門が
こん出て。あげさ門世へこのでぐるげる〳〵そのよし

こゝいの人へこんご同のきふこと人ごとくきすハ今の
仏さまがあの中ゝまとゝまを稲くのごとくこん
つけこコリヤア雷眼後で風をこんろよりまごむ
かゝ。おゝゝが同でこんこちゝ。同こるでもを稲ゝこと
あもあごろゝ者ごどゝ体ハ仏こゝをごめこゝごこと言
きゝ世へこゝまゝゝ来さまがいこゝ世ゝをあやア。
コリヤよゝこゝ。ゆゝゝおまをとおぶゝてあるべ乗るハまゝこ
おまごゆゝをおぶゝてゝこゝいこゝ世ゝこふよゝて。

よゝこゝが来さまをおぶゝてやゝく今の川中
ぎゝへおつまゝこのてごぎゝるげ後コリヤアよゝこゝも
きまのこゝ神人男ごこのちゝ。ゆるゆ来さゝ。鼻
紙袋ゝ。袋の中へでも入ゝて。ゝゝ世ゝこのふ。お
ぶゝこゝおゝゝん。こゝまゝもいゝが。よゝハ来さまがアノ
よゝこゝをおぶゝてやゝもゝ大笑ひご。まゝハ今の
仏さまふ。ごふゝてあぶさゝ。ゝりのゝこの川あきれゝ
ゝまゝのハゝ。ゝゝとゝこゝトリハ行ハ江戸ゝて

不動
萬荷の
郎峠
上ちつ
塩沢
牧之

小体所

うきとゆるゝ人ぞん。そぎやアこといめで。對があるゝん
ぞん。めゝ来さるゝハぼうゝゝやアちゆそふても。ゆるゝハ
あゝゆあう。ふとゝものふるゝ出るゝとのふことんだい
陽ダイブツ
ナニあるハふゝくゝあるとゝ久。来程ゝ月ちゝのめゝ来
さるゝも。尼ハちゞゝあゞゆゝてゆるゞ。よるゝあゝさゝゝこでも
抱てゝ来るゝとゝそのふとゝくゝ白ゝるゝこゝ大ゝの生ゝ。その
ゝゝち。此男いめゝ来さるゝのふゝくゝさ。出ゝ青ゝるゝどゝハぞゝ
てゝゝ出ゝるゝとゝかゞゝゝとゝゝ。ゝゝゝ此ゝ毋ゝ。ゝん。ゝゝ

ぞゝう大師の出ゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ河ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ
て嗅緒とゝむゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きさふ山けふ〳〵ぜうけさせる。そんなかまさなへ
ゴーきゝふぐのぺやくくなさるさな
のをぐゑゑ〳〵きのをぐなつてきいてなさふの人。
このぐゝちぺたるゝとおるゝちやくらうこゝゆて
ゑまゝこの人中三めまさなのるべあおろよいふあいろ
ゐゐをゝちぐゐ〳〵きさなのいふゝあゝなといふさけ
ゐう見ゝ行べ。ゐをゝこへおいゝぐるゝゴレなんでゐ
をゝこいふゝ人〳〵ふゝけまるのへゐをだゐ〳〵ゐけをゝ

げぐゝちがゐをゝ人ぐゝ人〳〵とゝるふゝちふやあかる
いせるゐ。あゐをゝぜゐてもむゝくゝのゐやあきゝゐ
ゝなゐのぺふゝあゝといふてもせゝゐゝぐさなあゐを
ぐゝぺとのまゝゐ。ちゐさなゝ言ゝきるさなぺおまをを
ゆて。あゝぐゝぺせゐて實ゝゝえゝ。おげあそゝゝ
ありひゐて。ゝ二句ぐて。紙1おゝくゝんで。おん投ふ
ゐゝぐゝよゝゝゐゐてゐをゐやあゐまさなよゝゝぜふの
ゐゝぐゝよゐちぐゝすぐゝゝなゐゝゝ。あげぐゝるゐゐて

かくのごとの。今でありやァ。殺まあんことこと。さい
せんの相のたとふいろ〳〵も殺ぐ。わるくちけてあり
あめどもこれて来てもぐまもきゝまんぐふ。えるの殺
おれとこアだぐんーるんの人〳〵おごりかそぎやァること
ぬうろうるうだん。そとうふぶちあやてあり殺ぐア。
そるがんごうしてもてきこそだん〳〵イヤはくま食いま
おらぶ仏とるくいのこと見て殺をこちやァがりて
そのざるハるんぐ人これちよりそれもぶ。大それこいけ

温人めよこれ殺とたうこびしたくうるり下三むぐあびかく
はるあもふるに
くよそちかつあぐて〳〵ふうけこうう一かんちあくかるあを〳〵コノ毛唐人めがト
バカヲイフナ
つきこそせびひよろくしてききあるかつ〳〵アいくくぷこそふくおごもが
うるつれううあけふこけてかきあぐう〳〵アいくくぷこそふくおごもが
るとこだきこそふ。出ものぐ出ものが出ありてあることこびア。こぎやァふ
ぐうむらこ。血が出る。アいくくいくくいくくいくくこだきこそ人出ものの
こそ。仏のこそぐ〳〵ア西国で見こそいふ。揮のこそうぐ
かこ。その人ごこそたさむ西。出ものハ部手拍がありと
いよこぐうこ。そまこそたうむいこのうそのる〳〵ちやせへ。

ドレ〳〵ごんるゝまうこう。ぶんてやろう。らしろとむきゐる丈
大うこう。ふんごーのむとびめあうと。ゐることがこゝといふ
ごろうの[illegible]ヤをぎやァるこことやるゝだれ。コレ。ゐこださ
みとうへ。ら〳〵〳〵トのどのトとゝ[illegible]へゐ。ゐろわどのどのトゝまを〳〵だうゝ
いうきゐる。ふんごーを去めうゝ[illegible]。頭でまきむ雨ごろう。それで
ゐとこぞきこ。コリヤきこへう〳〵。〳〵きこ八サア出うけやうゝ
ト大ゝうしこ〳〵ゝたの茶ぶいを
ちゝいゝちいづゝどて
みあゝ〳〵も[illegible]よ火ゝをを人で[illegible]

佛さのむ。鄙でこゝあを
ゝをとゝをとゝをゝるこゆ〳〵ゝ。餓ふゝをゝの去れば
禪と高をし。ゆ人のゝるゝ。ゆや
係。出。法。ゝあゝて。喜。多。八
ゆゝて雨八。鄙ふふゝてゝやゝゝゝれば。或酒屋のかごふ
ゝゝごゝゝて[illegible]ゝゝ。ゝ。ゝ。

少之ふ
さゝの
乃乃
わど
のけ
出して
紙
合舟

中て
紙
えゝ
も
きこえ
ヒチコ
長岡
松魚

ごりこ名いかてかまご。酒さてこ名てごゝゝゝせ
馬
ゝそ五まよかろうゝさこハ手めゝのゝ祝へゝゝゝやてうゝゝ
こ名ゝゝこァそのこんごの人今こ名まで。ださ名ゝこちひ
こうこと。山稲このやゝまよの世そ事ごゝゝでの人こ五こをつけて
せてこ名ゝまごこのやゝゝでひこうのゝてごゝこうゝゝ世人
ゝ
ゝ
ゝ

のまゝ後へ引こしうつ。むこ〳〵のこゝろうさ〳〵いつる。
あゝもうとぶい〳〵トつゐでのあがるまいろてのくらひられ
そあゝもきるれべぐ〳〵のこゝろ〳〵コリヤ
がるまるんぐ。ほどこーどもへ戸けのまつ〳〵ほで
なけやもア。むべきうまるんヨノおちゐへまるんえふー
まるんう〳〵〳〵こーきこでゃ。よんどもまゃざ〳〵うけの
詩尾七ごとでぢ〳〵きまのゆきぐ〳〵てこー
ひとづゝまそいうこがの〳〵百万遍がおまつ〳〵まゃ。釈迦
ぐ〳〵さいゆん
重の西会だあむぐ〳〵コリヤ持きかのーどゃアのめまい

こまいて。悩〳〵まるまとうん出〳〵。そふぬのぐ〳〵童で
ゆ〳〵うこがこー。がまるまつひまま〳〵ぐ〳〵。それふ〳〵まぐぶん。
まふも鉢〳〵こ。てう〳〵ぐ〳〵と面ぬ十はうひまるさ。高
うんがまるん。つぐゃちゐゃごの嘴でちぐごの〳〵〳〵コレ
きまるぐうおかーろまぐぶ。この酒へおら〳〵貴のめ
まるい〳〵。まるあ〳〵きろ。きまるゆ〳〵てまきまい〳〵せへ
引〳〵りゃ虫生ぐごの〳〵。稚気ちゐ〳〵まぐ〳〵せ人すまと。
〳〵まいきまちまるゆ〳〵ゃの〳〵へおぐん。ゆー〳〵そんまふ

[illegible]ひとをきいがの人間こあるを。をこ
づるかでる。あゝがおまア。ふそうよふよく。ちと
きかてゐるチャアサア。るるもんぐるさどのかふいふ
おやア。ゐへう〳〵ドリヤ。ぐ〳〵アかつけてやろう。トあちこち
ちがう。ぐ〳〵ぐるとかたへつけて。隙いくかのるぜイヤ。山雷生め。ドッと
〳〵〳〵。きかつまへてゐる。あんごでいるい。ひろうもも
のゝかけ。まゝ。トるまちをとらせて。やろうもも〳〵〳〵。かよ
ふ〳〵ふのんでいきふん。をとへついでぶかけ。インま

りおけかちやア。かはよもどきるぐの人〳〵〳〵どこふ
まぎまこいふ〳〵呑をゐても。ゐひまきつこのるい
男ぐこノひやう〳〵ふんのぐろうぢんめぐ引。ぐ
せかふんかぐ。ふんふんゆ〳〵ていけつちやア引いうゆ人う
ぐゆまるのぐト。ゐれて。ふせ。ぐるをひき出せ。しが。まぐれあ
あるぞきさハ。ヨレ。りかくるをあつぢ〳〵ふるさふ人う。きさふ
れとこて。ぬ。ゐうをるぐうひくう。ぢくちぐ。ゐへ〳〵〳〵。ゐか
ぬ

くぐりぬけて、そこらで、ふと、紙つゝこてらきたん（八歳）
ぐらめ。るんが日が永くそもも。特所まで、里くらの
ろぐ。さあ〳〵やう、袋八分（三寸）コレ手の紐（紐）ふくぐの人。
おまへ、その乳（き）で、ぬいからさ、の服の中ふ。十つ（と）九八
よく辛抱（ぐう）して。ねさ、ぬけさの人（陳）ろ、こといへ（まの）
ちゆく〳〵ぬ（三寸）て〳〵ぬ（三寸）んぐら。ちゆくと、泊（まの）てぐろうせ、
とのさづるア。おまへさのくまと、トるのさうるとふ八へ見（こうけ）
（代）（コリヤ）〳〵ぐふさとりぐ（三寸）ぬ（三寸）ぬ（三寸）ぬ

ユキヲ
長岡
監造
ユキヲ
与板
知里田九

おそらくこのるすにゝ　年をおぼしがあるべきまことをひと
ゝれてごこふう稽ふさりけてあるのゝ白こくき
さるゝもの彩こゝ入このるすがそゝまぬゝまやく
おれゝそふりけてゝぜ人むすのるすにゝ男をめのぞひ
ゝ見るゝごゝもゝ掠ひごゝふない稽ふるがゝせで今
きゝるぞうゝゝく鼠とかいてあるゝごゝるいゝゝ
おとゝゝもゝ三まゝるおきるえまやゝぞんゝゝない
きるにゝへつまゝ稽人にるんおまふのゝつ世人ゝゝんでも

いのりのもゝゝるゝごゝるうかゝゝもつゝゝまとゝまりて
ぞゝゝゝ世人まゝゝゝゝゝト世ゝゝゝゝゝ

ちゃせんく（隙）まこ三あまこぐおまとまろと。行ちゃ
ざんてそんちゃの中ぐぐ。ひんろかんごろう
コリャつまろ孫へ。まかろいちごちょおまろ。さん
ぐんぐあろそまるちゃのぐ（やハ）まちかませへおめくそまてて
居ちゃませへあまーげさんくあまとまろ。そ山ちく寿ちめ
ぎんとてね孫へう（隙）コリャドウくぐ。待てくまく
ちめへそんるよ寸うごうをまると。あまこぐろうろう
あんそちゃそのぐ（ばハ）とんんおまるとてる。実孫へる

（隙）まこそふ見ちんまるまま黄泉さん寿ちゃ味噌（やハ）ふ。
（しまれ）柄落ぐぐやア孫へつ寿ちゃ孫へちゃまあんりめぐ。その
ちゃせ山ちく寿ちめぐ。ちんとる寿ぎんてん居やア
ぐろ孫へ。コリャく出ちゃ（どて）へあるまやアぐ。シてとく（隙）あらと
あいろく。松の寿へちまんんてア。山まろつけやアぐんと。
ソリャく山せまん（ろこき）並木の間（あちぐ）へまろろとまろへ。そそん
あやまろ。ごふまろのぐ。あいろく（やハ）コリャやぐぐごんまる
出孫へろく。トいてあまろ（あちくへ）ちゃのまろとかるハぐ。ふまの（まちぐ）ぐ

[illegible]

なのをしらべてこのあごをよつてまつてゐるうちに

いつそんをうめくとそくしきいつかいくさぞく

トまごべのあのあごをはなしをけてこびあつやくとさくと、松のあごぶ

かるきうあもをはらはらごうさうおちるもづくよきくとハのうるや

ぐうくうくうるのそくのあうくまくいかハまろさうるゆアイタくく

あをゝ木の福ゆをあるくあるいやとうあるごくとちくアイ

アあをもいてくくひさんこりゃひごれめふあへせさ

アイかおきもむうみきるととるよきうとうくてアい

ゆうはくくこりゆをとうみてくひうきてくをおきくくを

狂人のあいさくトくをあてあきあぐるとおるじくゆハ。

ひごをうくておきあぐるぐうしうそまる

るのうくをいめくまくんめよあみさはるとそのそくて

あうくくまりてくこみて。うあ志ようふぐあるりのぐ。そぐ

て。ふあるくこみちの芝雑ぐことのどうちくあうめ

よくおいうをあみくとあをアぐみさうぬおるくて久

うをくアニうるぐおぐくてぬるりめぐ。うみちあておいそ

サくくいこう。あいくくトやうハひうくとひきくくまくあうみ

てこのくくところをうち をぐうくて

二ヲ　ふうぐんふのうくぐいうるわべ

十四里三ヒロ　こゝ　ちゝ　ちゝ　ち

香山

あるへて仏も出給へ張ト言の通り男ぶ。いさく仏の
ごとおしへをひ法ものと門にくだとろのやうるものが。
きやくこころみも。見く首へ出ちへひつ出て和チをん。
なのんごろう　トよくくはれべ魚のよう。魚とらのものよりハこそう
らいの人のおのいのうこをを。夜とおりよりまやをろくあくく
りへ人まとひつきて。夢ものるれべ。ホンニ　仏ごとおりろう魚
ふろうのあ。しくも。夢ものるとをて。
ぶ。こりて　めづらしい。大分な　行をつぶさせやアが門と。
ぶちとろしてやろう　トかをひろひてあろうれべ。あるくく
とのりろていりて。家で夢てりろう　トかをこりかを
うきぎを去を

ぶてぶるさげてりるぶ。ぶのあるひろうしてきろこれをこころ。男門ろれぶ
ろ。年太ろの人門イヤ魚のりめでおざろやと。まり門
ぴ。ぶ。ぶ人ろ。せ人門とんろ。ろ西ハとの夜ろをあぶ
んろい。ごと人出ぶざ。ろ。ろる門　ろ。ろ。ろ。

ぢう系とのの大おまぢ男ぢ〜〜猟人ぐぢとの
き縄のおれひで。猟もあふも出まし〜ろいろ。気
と農ぎまおまりてぢ〜せ八十二ろのちゃ出ぢ八
ぢちて〜ようあ中とんる山道をあっくかの久。
猟でも熊でも出〜〜ぢ所のまげ。ぢゃうゑ年
ぢ〜ぢゃ熊ぢ。まづ〜すゑゆ〜て見せやせろ。ろの
ちハ夜ろがをれで。ぢんる山でも出〜〜でも。お
ろれやまぢ。ろもとまで退剥ぢもよ出ゆろ〜ろ。

何度おのろうまるやせん。ろ人ゆ十ゆ百人年
でもろのちぢこの技まで。えるろきちし
て。ろまろ〜ようんぢろ〜。そろ人のろちゃ。ろらきの
一ゆまろ〜いろ。ろのちのろ一出ろらふまぢ
ろの出ゆろ男。ゆろ〜〜ゆ〜ろらのゆ。ゆろのあろ
ゆろゆろ〜〜ぢひて。ろぢ〜ようろ人ろ〜ろ。
さろゆ。ゆろのよ技ろろとぢをぢ〜せろ。ろ〜ぢりのへ
ゑんぢ〜よる年中夜山ぢろゆゆ出ぢあろ〜。あふをおそぢい
ろ〜ろろゃ。ろ〜ゆいゆ。そのうちろゆけあろへ。

難所
出雲崎
八木十庵

行さまひとりゐるこ。このやまへも出まゝ来るのが
のべこまこまあっちやア。ぢぢんと見うちがくまとだろうく
るるアうでいけまーあいつ十三天狗。イヤくそがあれ
きろ。これちやア生まそうこうまぢ天狗しらかりの
をんこしこぶ狗べでのでぢ虫ゆいてんかのぢ。鼻柱を
ひんもきれて。ふ身の餌をまるぢ狗るまあでも
こやろうよトおそうまふっようこをとらひおがらそ十ハト
ぢんぢしそうげまさーかるそ十ハト
ふく中狗人ふ狗ぢうんひまうちまを人イヤ

おそこまは大縄があるモミちくをひとりゐるを人
ぢくこれ行ぢうのさんぢよ。大なへが三ヤくく今まで大
るれろぶくくーてんをさうノ行人ハテ三ーうげこころぢう
のさんぢひりうけておおこまも バさが十ヤ人行人二ア二
今まであれさがおこーてまこころコリヤ あうーこと
こーこぶーこもまこーアアこまこんトこまこうこ
うろくくこぢはまるまのうこうんへをふくあまむきてんんびまるかは
こうきまのろぢまよまるハの大ちどのひうり。ふくうのてえゆるゆきまを。
三人ちぐ。あきれくうてんえてある。この中天狗のまも山ふそおりくか
中のこをこーて。くをちおこうろをがまくくんのろあうのさんをひりうまて

あれこそ大きなてんぐの山ごもりの者なれ。あの大石のうしろ
にまるうみこくなれば。はのまるくひのかげるまで
そろう稽古をするべしとて。そのまゝそこにひのかげろう
そばづる稽人。こゝのかれがこゝにのぶやア稽古おぼえと
のぶ稽人。こゝまでこざるなり。アリヤア大なれてこざらアの人
そこをでもトラこんみる。水の枝
ぶ。ぶかして大なれば。きう稽古。稽めがおいらとひや
うしやア。なるのこゝいめ人まいのちくまうめぶ。石をも
ぶ。つけてやろうトこゝろのりをひろのふかかとかこうの人
あらそあり。これちのさることへちてちつひるぶら

稽人
コレくまぶくふさ。せ。きう稽やこめきの者ことを
ぶやアどざんるい。あのゝこ。今ろこ。鼻のこうんト
きくこう稽ろこび稽人。ちこ。ハア天狗さうゆ。大変ぶ。ワレ
稽さんなるせ。あんまくおれ人の。ちこ平ぶること
あるのこ。ちこ。ちこで天狗さ身ぶ。おこうをあさらな
まれて。コリヤ逃さくてもぶ。ぶこのるさうめ人ーぶんる
めふあさふも書き稽人。ときハちうこうこうこうこ。きんぶ
ぶこのうぶさこんこうこ。ちこ。ちこ。ち

孫八「ヨイ。とてもおそくなりあるきとけ」

ごぜ。ゆるされ。せんまい。こゝせろまいん

りんとうこうきのをまのお義理をける

さりてもせんまい。こゝゆゝくもものぺ。さんげをゝ

てあやまゝ。せんまいこゝゆゝくゆるぞんしやせぬ。こゝろ

きあちこのてをを茶ゆゝて。をまをとやこゝ

さのぺ。ぺこゝゝでさぐりやせぬ。ぞぞとくゝ

をぺ。ゆるされてもこゝ。ませ。孫八「ヨイ。ハるゆゝ

だゝいてまるゝこゝ。ハイお天狗さまゝ。ゆゝ

ゆゝと。あんるゝまゝこゝのるゝだゝ。こゝろくゆま

をぐ。といれゆゝされき。この義を一足ぶちこゝ

まゝこゝ。ハイこゝ。ぞををく。義をおゆゝが製しぞゆ

孫八「ヨイ」そよ。あをだゝりをかゝをちまゝこゝゝの

ぞゆゝ孫八。ゆゝくゆゝ義理をゝ孫八のぞあん

でゝゆゝ。こゝまで。おぞれてをゝゆゝ。かくさぞま

ぶちあけて。さんげをゝてあやまゝ。せんまい。孫八「ヨイ。さゝ

るゝ。ごとく〜ふるゝたぢ。ぞろう〜の船屋のかく
者ゐをもちゐると仕まんだ。えべこごぞごろまし
ごゝりふこをこうへ。きゐこいこ〜まことあへ〜ゝをこうら
いこそふこゐて。ぞをぞりふいこきをこゐのぞ。それ
ぞうこぶやァ。孫人。乗為者。芝麦をくひふげして。
ごぶの中へあゐこもこもいひる見へ〜ゝ人のこと
いふまゐ人が。本曽の体生のあちや金でこうび解を
ふこゐこゐて。ひこ〜ゐ色ぶうしう。銭をもう孫人しやァ

孫人うへそをこようう。おゐ人。法馬の建場でぞんごを
ぬきんでゐゐきこゐ。者ゐも消炭の火がぞんごよ
ゐゐはゐてゐて。ゐちをやけぞ〜ここ。おゐ人がある
ぞぶう引うぬが玉性者のゐ〜てあうこのと。解の
かひひこのぞこあうゐて。ぬきんでゐんてこうやァがゐて
者ぞうを。庫ぞうけふ〜こここゐいれぞよ。ゐ人
あまこをんこゐ。火縄の火が。今のまふ。あイる
でいやまるゐこのイトうあうまこのまふ。あ今イでこぞこ
ぞひがうゐのやこちまちまち大

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さて諸々有頃天狗おそろ〳〵
やがて相ふ有るべし。彩所者とゝ〳〵と者ども

道中續膝栗毛九編　上冊終

本要